

1. 研究課題名：支笏洞爺国立公園をモデルとした生態系保全のためのニホンジカ捕獲の技術開発

2. 研究代表者氏名及び所属：

吉田 剛司（酪農学園大学環境システム学部）



3. 研究実施期間：平成 23～25 年度

4. 研究の趣旨・概要

北海道に位置する支笏洞爺国立公園では、個体数が増加したエゾシカによる被害は深刻で早急に効果的な対策が求められています。ただしシカ捕獲は困難な作業であり、適切な戦略を立案する必要があります。

本研究では、シカを効果的に捕獲するための条件抽出（地形、時間、方法を決定する）、捕獲効率の検討（どのような罠や餌が効果的か解明）、体制整備（地域で捕殺する際の合意形成）、動物福祉と有効利用（捕獲したシカの有効活用など）、さらに移動追跡（季節移動を解明）を実施して、北海道西部で大問題となりつつあるエゾシカ対策の実践研究として生物多様性保全を推進するためのシカ管理方法を導き出します。

5. 研究項目及び実施体制

①環境条件にあった管理手法の選定（条件抽出）

（森林総合研究所）

②シャープシューティングを円滑に実施するための体制整備に関する検討（体制整備）

（岐阜大学）

③島嶼生態系における推定母集団を利用した捕獲効率に関する研究（捕獲効率）

（東京農工大）

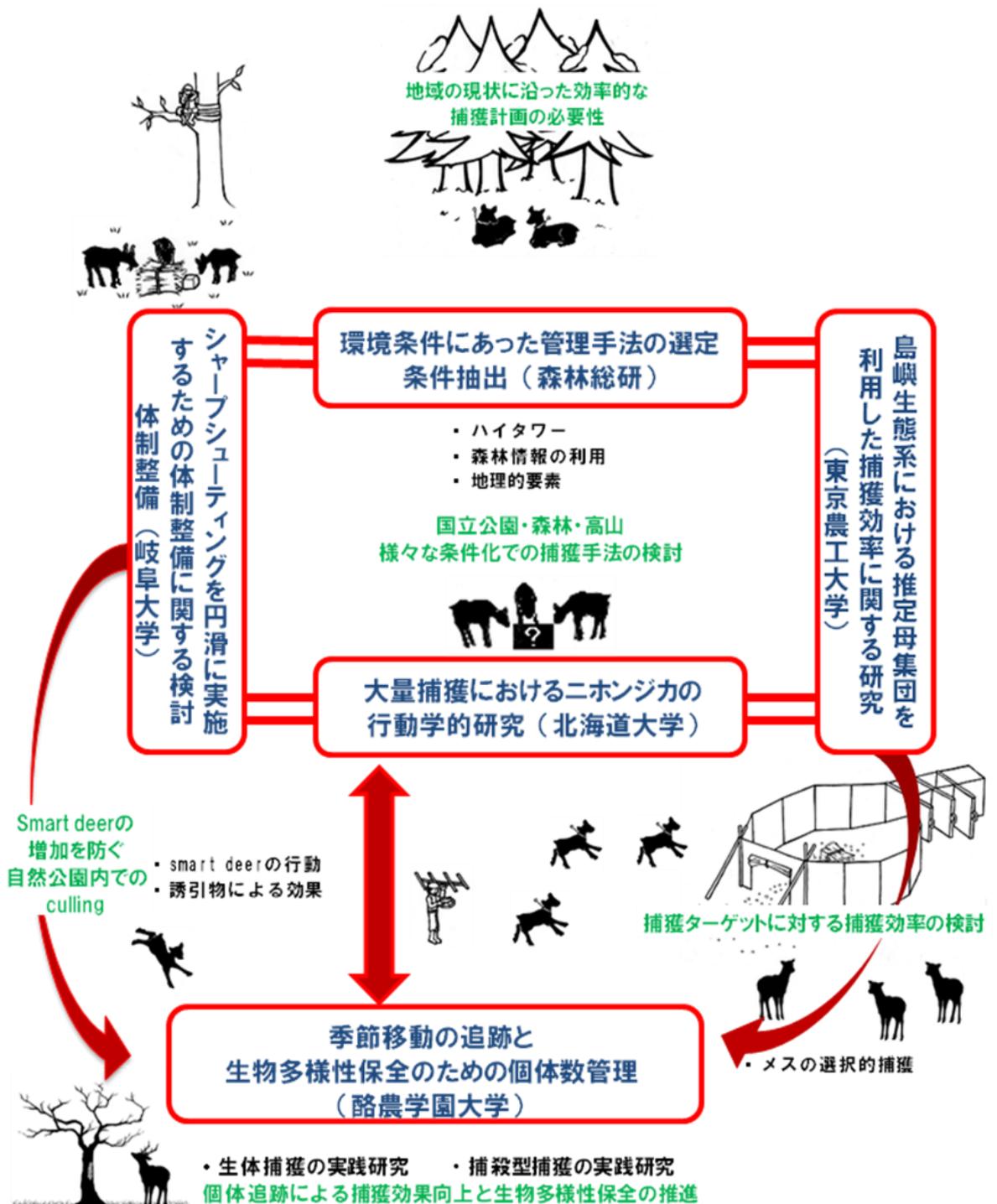
④大量捕獲におけるニホンジカの行動学的研究（行動と動物福祉）

（北海道大学）

⑤季節移動の追跡と生物多様性保全のための個体数管理（季節移動と個体数管理）

（酪農学園大学）

6. 研究のイメージ



※Culling: 効率的、科学的な捕獲を示す。計画的に立案された有害駆除であり、一般狩猟者に頼らない個体数管理。捕獲の場所、時期、必要捕獲数を科学的に算出して実行する。

※シャープシューティング手法: 戦術的ライフル銃による狙撃法であり、少人数(1人でも可)の熟練した射手が、適度なインターバルを入れながら従事する。

※smart deer: スレジカのこと。国内でその個体数が増加傾向にあるとされる。狩猟期に出没しない、射撃されるような場所に出没しない警戒心を高めたシカ。